

研 究 分 野	増養殖技術	部名	魚類部
研 究 課 題 名	うすめばるトータルプラン推進事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 8 ～ H. 1 9		
担 当	小泉 広明		
協 力 ・ 分 担 関 係	小泊漁協、下前漁協、大戸瀬漁協、鱸作漁協		

〈目的〉

減少傾向にあるウスメバルの資源回復の一方策として、栽培漁業化の可能性を探るために、親魚養成並びに種苗生産の技術開発について検討する。また、ウスメバル海面養殖についての技術開発について検討する。

〈試験研究内容〉

1 安定量産技術開発

1) 親魚養成技術開発

平成 14 年以来、養成してきたウスメバル親魚 215 尾が、平成 18 年 1 月に白点病によりほぼ全滅したことから、あらためて親魚候補の収集にあたり、約 190 尾を確保し親魚養成を行った。

2) 種苗生産技術開発

天然で成熟した雌親魚 3 尾から産仔された仔魚 168 千尾を用いて量産試験を行った。

3) 中間育成技術開発

天然で採捕し当所で育成したウスメバル稚魚を鱸作漁協および小泊漁協に搬送し、中間育成試験を実施した。

2 種苗放流技術開発

鱸作漁協で中間育成した稚魚に標識を装着し、鱸作漁港沖に放流した。

3 養殖技術開発

〈結果の概要・要約〉

1 安定量産技術開発

1) 親魚養成技術開発

天然で成熟し平成 18 年 3～4 月に導入した親魚 9 尾のうち、3 尾から正常な産仔を得た。

2) 種苗生産技術開発

3 回次で合計 168 千尾の仔魚を用いて種苗生産試験を行ったが、ほぼ全滅であった。

3) 中間育成技術開発

前年度から中間育成を継続した小泊漁協では、生残率 69.3%、今年度に天然で漁獲したウスメバル種苗を用いて中間育成試験を実施した、鱸作漁協では生残率 85.4%と安定した生残率が得られた。同種苗を用いて小泊漁協においては中間育成を継続中である。

2 種苗放流技術開発

小泊漁協で中間育成した稚魚(1,156 尾)は、平成 18 年 6 月 23 日に黄色アンカータグ(片方切除)を、鱸作漁協で中間育成した稚魚(795 尾)は、平成 18 年 11 月 27 日に白色アンカータグを装着し放流した。標識放流魚の再捕は、事業開始から現在までに 3 件に留まっているが、漁獲サイズに達する来年度以降、より多くの再捕が見込まれるものと考えられる。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 人工種苗の生産状況

●産仔：3尾

	産仔月日	仔魚尾数	飼育状況
①	2006/4/1	42,800	・30～60日令前後でほぼ全滅
②	2006/4/7	53,500	・3例ともに上顎骨の奇形を確認
③	2006/4/24	72,000	
合 計		168,300	生残尾数：約500尾

表2 天然稚魚の採捕状況

	採捕月日	採捕場所	魚種	尾数
青鰯丸	2006/6/27			
	2006/7/10	日本海		4,700
	2006/7/11			
青森市水産指導センター	2006/6/19～	陸奥湾		約1,500

表3 親魚の確保状況

	尾 数	サイズ	由 来
青森市水産指導センター	31	20cm前後	増養研、人工魚 2+
小泊漁協	87	20cm前後	増養研、人工魚 2+
能登島水族館	23	20cm前後	天然魚
大間・北通り種苗センター	99		天然、釣獲個体
今別東部漁協、鱈作漁協	数尾		天然、釣獲個体
●2007年3月現在	188		●成熟メス・産仔候補3尾 (交尾率：30%)

表4 中間育成試験

実施機関	開 始 時				終 了 時				
	尾 数	年月日	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	終了	尾数	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	生残率
小泊漁協	1,667	2005/10/27	79.6	10.07	2006/6/23	1,156	120.0	31.00	69.3%
鱈作漁協	931	2006/10/5	80.6	8.80	2006/11/27	795	105.4	20.15	85.4%
小泊漁協	1,500	2006/10/12	74.6	6.50	2007/6・予定				

表5 養殖試験

	開始	尾数	平均全長 (mm)	実施状況
脇野沢村漁協	2006/10/11	3,000	80.6	
大畑町・北彩漁業生産組合	2006/12/14	1,500	109.6	2007/1/23、生け簀網の破損により中止

〈今後の問題点〉

- 1 養成親魚から正常な産仔を得られる確率が低く、さらなる親魚養成技術の検討が必要である。
- 2 種苗生産において安定した生残率が得られておらず、安定生産に向けた種苗生産技術の検討が必要である。
- 3 親魚の白点病、仔魚のイクチオボド病の発生がみられ、魚病対策の検討が必要である。

〈次年度の具体的計画〉

- 1 飼育条件、餌料系列の検討
 - ① ワムシ、アルテミアの摂餌、消化速度、飽食量に関する試験
 - ② 仔魚期の適正飼育水温に関する試験
 - ③ 無給餌試験による、親魚由来の仔魚の耐性試験